

A. 日 時 2013年9月11日 水曜日 17時30分～19時30分

B. 場 所 本会会議室

C. 出席者 松本、他7名

D. 提出資料

No. 03-01：第02回環境振動性能評価小委員会 議事録（案）

No. 03-02-1：建築物における環境振動に関する居住性能評価について

No. 03-02-2：建築物の振動に関する居住性能評価で検討対象とする項目

No. 03-03：住まいと環境振動の関わり

E. 審議事項

1. 議事録確認

資料 03-01「第02回環境振動性能評価小委員会 議事録（案）」について報告

※ 前回委員会議事録内容の確認

→ そもそも論とは？ ⇒ 環境振動評価はどうあるべきか、知覚確率評価のみならず多方面からの評価等も検討しましょうの意味

→ オンラインストレージ有効活用しましょう ⇒ 委員会二日前までにアップしていただければ紙媒体不要

→ ISO 2631の改訂について ⇒ スペインより提案されている内容は主に鉄道振動の測定に関する事案であり、元々振動源を規定していない2631にはそぐわないのではないかと

2. 議論

A) 資料 03-02-1、2 について報告

※ 建築物における環境振動に関する居住性能評価について

→ 環境振動に関する評価を行うために検討対象とすべき項目は振動知覚のみならず多岐に渡る

※ 検討対象とする項目について

→ 居住者側も発生している振動の原因はある程度把握しながら判断するので、振動源を分類することに大きな違和感はないのだが…

→ 評価にあたっては、振動源をある程度把握しながら検討し、最終的には振動源をネグれるような形でまとめることが理想

→ 上記を簡易的に示すと、表2における「振動の特徴」「評価対象とする時間・期間」「代表値・評価値」をまとめることが理想

※ 検討する項目の重要度について

- 建物用途等によって各項目の重要度が変化する可能性
- ただし、それらの重要度に関しては、評価側からではなく設計指針側から提案すべきもの

※ 情報の集積

- 表1の空白部の情報の集積にも努める
- 情報の集積時には、実験条件（正弦波？ランダム？等）にも留意
- 検討範囲を建築物に限定せずに、他分野にもオーバーラップしている分野もあるのでそれらの範囲にも留意しつつ情報の集積に努める
- 研究がなされていない分野も、近傍の実験結果から類推することが可能な場合もある

3. 次回以降の課題

※ 評価指針への提言

※ 環境振動に関するホットな話題を随時募集

※ 評価WGでの活動内容の報告

※ 以下担当者ごとに大会論文の中より興味のある項目を各担当者の立場から紹介

- 木質系の発表論文より
- ハウスメーカーによる振動実測関係より
- 長周期地震動関係より
- 環境振動分野より
- 環境振動分野より

次回の当委員会は、11月12日（火曜日）17時30分より本会会議室で開催します。

資料を提出される方は、あらかじめ準備(14部)されるか、もしくは2日前までに本小委員会のオンラインストレージまでアップロードお願いいたします。